

文化の日

2019年(令和元年)

11月3日

日曜日

台風19号 関連記事

権兵衛トンネル検討委 2面 スポーツ・催して後押し 29面
被災地を歩く 飯山市 28面 被災地思う心 全国から 31面

台風19号 生活情報 29・地域面

支援に恩返し 今こそ長野で

「共に前へ」西日本豪雨の倉敷・真備町から応援の手 地元児童のメッセージ携え



岡山県倉敷市真備町から駆け付け、浸水被害を受けた住宅の壁を削がす小田さん(2日午前11時44分、長野市赤沼/中村桂吾撮影)

千曲川の堤防決壊で被災した長野市長沼地区へ2日、昨年7月の西日本豪雨で大きな被害の出た岡山県倉敷市真備町の男性4人がボランティア活動に訪れた。多くのボランティアに復旧を支えられてきたことから

「恩返しをしたい」と、地元小学生のメッセージも携えてきた。「前を向いていければ元の地域に戻れると思う」。自らに言い聞かせるように、長野の被災者に思いを寄せた。

訪れたのは真備町にある市立川辺小PTA会長の小田祐三さん(49)。1日深夜に車2台で出発し、この日朝、長野市に着いた。「ほとんど寝てないよ」と笑いながら、倉敷市内外から集まった飲料水やタオル、下着類などを、紹介された長野市赤沼の北町集会所に運び込んだ。

2日以上浸水したという住宅で壁を削がす作業を手伝った。ガス会社のリフォーム部門で働く小田さんは、ボールや電動工具を持参。慣れた様子で、壁からぬれたままの断熱材を取り出した。一部では今も泥のかき出しが続く。「(真今アレハ)が校舎でがんばっています」。模造紙に貼り付けられた手紙一つ一つに、幼い文字で気遣う言葉が並ぶ。

小田さんは、今回の災害で被災した長沼小学校の子どもたちが教室を借りている柳原小学校を訪ね、長沼小の北沢克敏校長(60)にメッセージを託した。「同じ思いを持つ子どもたちの言葉は、長沼の子どもの胸にも響くと思う。新たな力をいただきたい。北沢さんは何度も感謝していた。

小田さん宅は今年5月から住めるようになった。ただ周辺には、移住を断念した人も、自宅の再建を迷い続けている人もいる。住人の数は豪雨前の水準には戻っていない。浸水被害に遭った川辺小も改修中で、校舎が使えるようになるのは来年1月になるといわれる。それでも小田さんは「諦めず、できることを一生懸命やりたい」と力を込める。「頑張ろう真備!」とプリントしたその日のTシャツを着た4人は3日も汗をかきつくりだ。(土屋浩太郎)



1873年(明治6年)創刊
発行所
信濃毎日新聞社
長野本社 〒380-8546
長野市南条町 657番地
電話(026)
受付236-3000編集236-3111
受付236-3310広告236-3333
販売236-3310
松本本社 〒390-8585
松本市中央 2丁目20番2号
電話(0263)
代表32-1200 報道32-2830
販売32-2850 広告32-2860
©信濃毎日新聞社2019年



サクラ精機
長野本社:長野県千曲市大字御物産路75-5
東京本社:東京都中央区新川1-25-12
www.sakurajp.com/

天気 最高気温 最低気温
飯山 17 5
長野 19 7
大町 16 5
松本 18 7
上田 20 6
佐久 18 4
諏訪 17 7
木曾 18 5
伊那 19 7
飯田 17 8
5%以上 5%未満
27面に詳しい天気情報

権兵衛トンネル出入り口前崩落

復旧へ原因究明本格化

検討委初会合

上伊那郡南箕輪村の国道361号権兵衛トンネル出入り口付近で発生した道路崩落を受け、国土交通省中部地方整備局は2日、有識者らによる災害復旧技術検討委員会の初会合を伊那市で開き、原因究明と復旧に向けた検討を本格化させた。山腹にあるトンネル出入り口は、渓谷に架かる橋で結ばれており、橋の端部付近の斜面が崩れた。検討委は現時点で原因が判明していないと説明。国交省側も復旧時期の見通しを示さなかった。

復旧時期 見通し示さず

政府は今回の道路崩落を台風19号の影響による災害とみ、大規模災害復興法に基づき「非常災害」に指定。県管轄の道路だが、国が代行して復旧に当たる。委員は学識経験者や国、県の担当者ら8人で構成。委員

要がある」といった意見が出たという。

会合後に現場を視察し、被害規模や周辺の地盤状況を確認。板橋委員長は「一般論」として地下水や雨が1カ所に集まって土を削っていくこと



権兵衛トンネル(4470m)の出入り口は、小沢川の約40m以上に架かる「権兵衛2号橋」(103m)と結ばれている。県建設事務所が10月20日朝、トンネル出入り口から20mほど前で、橋台付近の土砂が大きくくえられて

6月にわたって道路が崩落していた。県は南箕輪村中の原一木曾郡木曾町日義の約18m区間を通行止めしている。橋台には深さ19mのくいが中に埋め込まれており、崩落部分以外には被害は確認されていない。権兵衛トンネルは2006

年2月、県内初の地域高規格道路の「伊那木曾連絡道路」の主要部分として開通。権兵衛2号橋を含め、国交省が代行して整備した。1998年に着工したが、地質がもろく掘削が難航。開通は予定より2年以上遅れた。開通後は県が管理している。

上伊那・木曾観光に大打撃

上伊那郡南箕輪村の国道361号権兵衛トンネル出入り口付近の土砂崩落による通行止めから2週間。上伊那、木曾両地方の観光に影響が出始めている。権兵衛トンネルを

伊那谷と国道19号やJR中央西線が走る木曾路を行き来するルートが定着。通行止めの長期化をにらみ、誘客対策を乗り出す施設もある。木曾郡木曾町開田高原のゴルフ場「木曾カントリー倶楽部」の中村伸幸支配人(69)は

伊那市ますみヶ丘の産直市場グリーンファームは日ごろ、常連客のうち木曾地方からの利用者が2割程度を占める。古牧貴志店長(61)によると、近年、中京方面から来て岐阜県中津川市の中津川インター(IC)で降り、旧中山道の宿場などを訪ねた後、

道路崩落した国道361号の現場を視察する有識者ら。権兵衛トンネル本線の出入り口(右)の横に非常用トンネルの坑口がある。トンネルの20mほど手前で斜面が崩れた。2

「国道361号は生命線で、大打撃」。通行止め以降、伊那、諏訪地方からの来客が大幅に減ったのに加え、中京方面からの利用者も少なくなった。「来年度の事業計画も立たない」と嘆く。

一方、近年、利用者の3分の1が伊那谷方面から訪れていたとする木曾郡木曾村の「やぶはら高原スキー場」。昨季シーズン券を購入した伊那、飯田方面からの利用者に、今冬は1万5千円分の補助券を出すことを決め、近く通知する予定だ。運営する奥木曾グリーンリゾートの川口勝社長(78)は「打てる手を考えた」としている。



被災地を歩く

飯山市 2日

申請開始

飯山市公民館で2日に始まった罹災証明の申請手続き。開始前から被災した人たちが並び、30分前倒して始めた＝2日午前8時46分、飯山市飯山



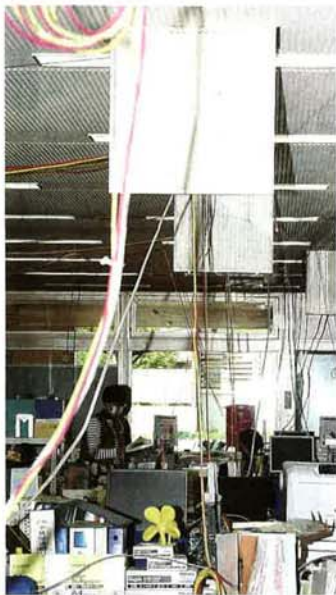
千曲川の堤防に近い自宅の2階で、水に漬かった思い出のアルバムを乾燥させる藤巻さん。「1枚でも多く救いたい」＝2日午後2時44分、飯山市飯山



力合わせて心を込めて

本町商店街の駐車場をえびす調の仮社殿を組み立てる商店主ら。商店街から地域を盛り上げたいとの気持ちを込めた＝2日午前10時22分、飯山市飯山

地域の未来 期待と不安



床下の機器が水に漬かって使えなくなり、天井から通信回線などを引いて業務に当たる飯山市役所1階＝2日午後1時52分



台風19号による大雨で千曲川の支流、血川が決壊し、飯山市は中心部が水害に見舞われた。飯山は2日始まった恒例の「飯山えびす調」に...



復旧工事が終わらず、ブルーシートで覆われたままの血川の決壊現場。その横を飯山線の列車が通り過ぎる＝2日午前8時1分、飯山市飯山

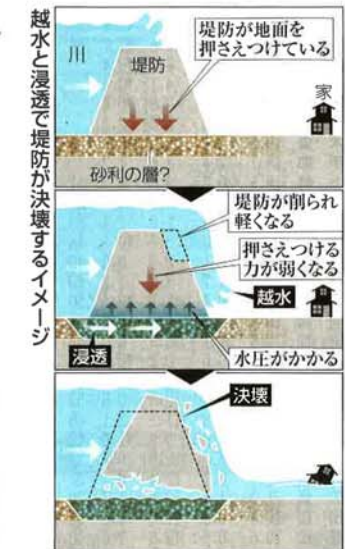


被災後の10月下旬に営業を再開したうなぎ専門店「本多」。3連休の初日は大勢が訪れ、商売を活気づけた＝2日午前11時48分、飯山市飯山

千曲川決壊 地下浸透も要因か

専門家「水通しやすい層」

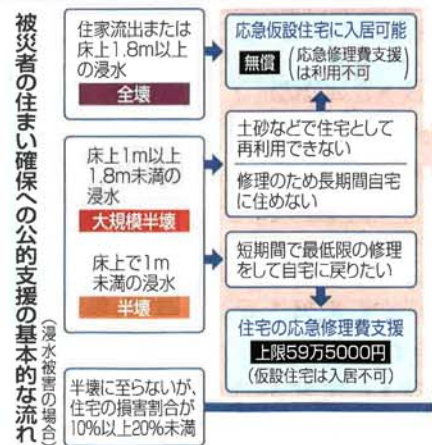
対策には限界「備え大切」



台風19号で長野市の千曲川の堤防が決壊したのは、越水による浸透だけでなく、大量の水が地下に浸透したことも要因の一つと専門家が分析している。

「人が住む平野は大昔の洪水によって平らになったところ。大雨が降れば、いつどこで水害が起きてもおかしくない」と下部教授。

「2006年7月の豪雨の際に『堤防の下から水が大量の水が地下に浸透した』と気づいた」と話す。



全壊と大規模半壊は国の被災者生活再建支援制度。全壊最大300万円、大規模半壊最大250万円。

Table: 台風19号による県内の住宅被害 (1日午前10時時点、県災害対策本部まとめ)

Table: 台風19号による県内の人的被害 (1日午前10時時点、県災害対策本部まとめ)

Table: 2日県の内の住宅被害、人的被害、避難所避難者数の発表はなし。次回発表は4日。

全国的死者88人に。台風19号の被害は、共同通信の集計で2日までに、死者は13都府県88人(災害関連死を含む)。